

平成 28 年度 決算報告書



事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善傾向が一部でみられたものの、個人消費は依然停滞が続き、中国を始めとするアジア新興国経済の減速やアメリカ大統領選挙後の政策動向、各国での保護主義の台頭等の懸念要素により景気の先行き不透明感がさらに強まりました。

このような環境の中、当社グループの連結売上高は、インフォメーションプロバイダー事業の売上増加の影響により 197 億 9 千 3 百万円（前期比 2.8%増）となりました。

当社グループの主力事業である放送事業においては、平成 28 年 1～12 月の日本の総広告費（株電通発表）が前年比 1.9%増と 5 年連続で増加し、ラジオ広告費全体でも前期比 2.5%増と前年を上回りました。しかしながら、当社の業績に直接影響を及ぼす東京地区のラジオ広告市場については、上期は前年を上回ったものの、下期に入り前年を下回る厳しい営業環境が続き、スポット放送収入は増収となりましたが、タイム放送収入の減少により放送事業全体では減収となり、売上構成においてネットワーク売上が増加したのに対し、東京地区のローカル収入が減少したことから、利益が減少する結果となりました。

さらに、企画・制作事業において前期の開局 45 周年記念特別企画による売上をカバーするには至らず、番組制作費の増加、放送スタジオの改修による減価償却費の増加の影響等が加わった結果、当連結会計年度における連結 営業利益は 13 億 7 千 1 百万円（前期比 8.9%減）となりました。

経常利益については、BIC(株)（持分法適用関連会社）等を中心に推進する i-dio 事業の放送開始に伴う初期投資費用の影響により 10 億 5 千 4 百万円（前期比 24.7%減）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は 6 億 2 千 3 百万円（前期比 46.0%減）となりました。

当社単体の業績については、売上高が 135 億 5 千 9 百万円（前期比 5.0%減）、営業利益が 8 億 2 千 2 百万円（前期比 16.2%減）、経常利益が 11 億 4 千 5 百万円（前期比 7.8%減）、当期純利益が 8 億 2 千 7 百万円（前期比 37.5%減）となりました。なお、連結・単体ともに最終利益の前期比の減少は、主に前期において賃貸用不動産の譲渡に伴う特別利益が計上された影響によるものです。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当社は、行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ」「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を放送活動の基軸とした「優しさと思いやりと温かみのある番組作り」を実践し、放送の文化的・社会的価値を向上することについて、取り組みを強化しています。

当期 4 月の番組改編では、当社の編成方針である「共感コミュニティ形成」と「統合メディア戦略」のもと、コアターゲット M1・F1 層（20～34 歳男女）の更なる拡大を目標に、ターゲットの共感の連鎖を醸成する新番組を編成しました。元 AKB48 のリーダー高橋みなみを起用した新ワイド番組「高橋みなみの『これから、何する？』」（月～木曜 13:00～14:55）では、各種 Web コンテンツとの連動を図っています。番組から選りすぐった話題をニュースとして配信している「TOKYO FM+」や「Yahoo! 知恵袋」等を活用した情報発信を行ない、スマホユーザーを中心とした新たなリスナーを開拓しているほか、社会的テーマにも積極的に取り組み、若者層にとって新しい発見のある情報ワイド番組として支持を得ています。その結果、平成 28 年度のビデオリサーチ社の首都圏ラジオ合同聴取率調査では、F1 層で全ラジオ局中 No. 1 を獲得しました。

日本の文化を発信する音声コンテンツを英語と中国語でネット上に展開している「TOKYO FM WORLD」は、世界最大級のインターネットラジオプラットフォーム「TuneIn」を通じて世界に配信しており、200 を超える国と地域からのアクセスを実現しています。そのネット向けコンテンツと連携して日本の若者にグローバルな視点を提供している新ワイド番組「TOKYO FM WORLD」(月～水曜 20:00～21:15)では、「アースコンシャス」の理念を世界に発信すべく、アジアの環境問題の啓蒙活動を促進するためのコーナー企画を、シンガポールのFM局「LUSH 99.5FM」との2局ネットで4月よりスタートしました。

グローバル時代の未来を担う若い世代に、日本人としての誇りと自信を持ってもらうための公開授業「FM Festival 未来授業」は7年目を迎え、10月に大阪、北海道、東京の3地区で公開イベントを開催しました。目まぐるしく進化するテクノロジーが若者たちの働き方・生き方・幸福感に与える影響について、日本が世界に誇る各界の識者であるメディアアーティスト・落合陽一、工学博士・坂村健、パラリンピック日本代表・高桑早生らと大学生がディスカッションを行いました。この模様は、全国38局ネットで放送したほか、授業の模様を収めたビデオポッドキャストも配信しています。このコンテンツは長尺であるにもかかわらず、シリーズ累計で2,900万を超えるダウンロードを記録するなど好評を博しています。

12月には、特別番組「ミュージック ドキュメント 井上陽水×ロバート キャンベル『言の葉の海に漕ぎ出して』」(11月23日放送)が、第71回文化庁芸術祭ラジオ部門(ドキュメンタリーの部)において「優秀賞」を受賞しました。日本文学者ロバート キャンベル氏が、井上陽水氏の独創的な歌詞における「日本語の曖昧さ」が持つ独特の深みが引き出され、音楽と文学が融合した知的エンタテインメント番組に仕上がったとの審査講評を得ました。なおこの番組は第54回ギャラクシー賞ラジオ部門全8番組の一作品にも入賞しています。

3月にはJFN38局の全国ネットワークを活かした新たな取り組みとして、地方創生プロジェクトを発足しました。当プロジェクトは、瀬戸内を囲む7県が地域の枠を越えて組織した「せとうちDMO(Destination Management/Marketing Organization)」と連携し、地方創生を実現する様々な活動に取り組んでいます。その活動の核となる番組として1月にスタートした「NAGOMI Setouchi」(毎週土曜 18:30～18:55 8局ネット)では、毎月著名人が旅人として瀬戸内を訪ね、そこに住む人々が大切にしてきた生活と文化の奥深さを紹介しながら、国内は勿論、世界に向けて「せとうち文化圏」を発信しています。地中海をはるかに超える多島美の風景を持つ「せとうち文化圏」を世界No.1の「和みの地」へ発展させることを目指します。

ヒューマンコンシャスの理念の実践として東日本大震災直後にスタートさせた番組「LOVE & HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト」(月～金曜 6:30～6:40 全国ネット)は、復興支援のため平日毎日放送を継続、被災地の声を届け続けています。3月11日には特別篇「LOVE & HOPE スペシャル『6年目の春だより～旅立ち、南三陸町戸倉』」を放送、これまで交流を重ねてきた南三陸町の集落・戸倉で復興のために活動する若者たちに密着し、その心の成長とそれぞれの進路への旅立ちをドキュメンタリーで描き、震災後6年間で取り戻したものや、今なお残る課題を伝えました。

このような取り組みの結果、首都圏聴取率調査ではコアターゲットM1・F1層の聴取率において年間6回調査のうち3回首位を獲得(6月、8月、10月)したのをはじめ、12歳～59歳のリーチ(接触率)では19期連続で単独首位を継続するなど幅広い層に支持を拡大しています。

また、8月には、「TOKYO FM 渋谷スペイン坂スタジオ」を、渋谷パルコの建替えに伴い、惜しまれながら一旦クローズしました。平成5年6月に渋谷パルコに誕生して以来23年間、知名度、人気度共にNo.1 サテライトスタジオと評され、全国からリスナーが集まるランドマークとなっていたスタジオからの生放送最終日を見届けようと日本全国から集結した多くのリスナーの期待に応えるべく、建替え後の新たなスタジオ計画を推進しています。

一方で、3月に放送開始から1周年を迎えた i-dio (V-Low マルチメディア放送) は、東京・大阪・福岡親局に続いて7月に名古屋親局が開局、また北九州、久留米、秦野、静岡、浜松の5つの中継局を開局しました。

航空無線との混信解消のため開局まで約1年半を要したことは想定外でありましたが、受信環境の改善を重点課題として鋭意努力を続けており、神奈川西部地区対策で秦野中継局を開局したほか、東京西部地区対策のため檜原中継局の開設にも取り組んでいます。

これら受信環境の改善に取り組む中、コンテンツプロバイダーも本格的なサービスの拡張と収益化に向けて動き出しています。TOKYO SMARTCAST(株)は、放送と通信をシームレスで楽しめる地上波デジタル最高音質のフラッグシップチャンネル「TS ONE」、楽天(株)との協業による「Crimson FM」などを7月よりスタートしました。また、中国最大のメディアグループ SMG (Shanghai Media Group) と業務提携し、日中共同制作「依好、東京」を2か国ネットでスタートするなどコンテンツ強化に取り組むとともに、全国の置局が完成するまでの施策として IP サイマル視聴を全国エリアに拡大しました。同社のデータキャスト事業においては、日本電気(株)との連携によるサイバーセキュリティビジネスの実証実験を終え、実用化に向けた事業推進の段階へと進んでいます。

(株)アマネク・テレマティクスデザインでは、日本初のドライバー向け専門放送局「アマネクチャンネル」を運営しており、スマホ向けアプリ“NaviCon”と連携して放送で紹介する様々なスポットのリアルな位置座標をカーナビに転送し、目的地を設定することができるサービスを3月に開始しました。また、国土交通省・NEXCO 各社が公募した「高速道路逆走対策技術実証実験」において、逆走車の接近を近辺を走行中の車両に自動音声で警告できる同社の技術が選定され、ビジネス化が進んでいます。

総務省・消防庁が1月に行なった「災害情報伝達手段の高度化」実証事業募集においては、加古川市が申請した i-dio を活用した文字情報とデータによる災害情報などを直接各戸に配信する防災情報発信サービス「V-ALERT」が採択されました。今年7月から加古川市で防災情報の配信を開始して実証実験に取り組むと同時に、全国の自治体に「V-ALERT」の採用を働きかけています。

<企画・制作事業活動>

イタリアを代表するアンドレア・ボチェッリ来日公演を4月に主催しました。2010年の当社開局40周年で招聘以来の来日コンサートは「誰も寝てはならぬ」「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」などの代表曲を披露するなど、神の声とも評される世界最高峰テノールを東京国際フォーラムに響かせました。このコンサートには番組「Piece of Mind」(土曜8:30~8:55 2局ネット) パーソナリティのサラ・オレインも特別ゲストで参加しボチェッリとのデュエットで満場を魅了しました。

今回より主催者として運営に携わった日本最大の夏フェス「ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2016」では、茨城県ひたちなか海浜公園に4日間で合計25万人の観衆が来場し、ミュージシャン205組の競演による野外ライブを繰り広げ、真夏の音楽シーンを熱く彩りました。

番組「SCHOOL OF LOCK！」が主催する10代限定のバンドオーディション「未確認フェスティバル」は、未来を担う才能を発掘し、音楽の新しい潮流を生み出しています。2回目となる今回は、全国3,364組の中から勝ち上がったファイナリスト8組が、8月に東京新木場STUDIO COASTに集まり、4,000人の聴衆を熱狂させた大阪地区代表の5人組バンド「YAJICO GIRL」がグランプリを受賞しました。

9月には、「JET STREAM」(月～金曜 24:00～24:55)のプレミアムコンサートを、中野サンプラザホールで開催しました。番組が持つ音像イメージをステージで再現しつつ、5大陸を名曲で巡る“世界旅行”をテーマとした選曲で、多彩なアーティストたちが上質な音楽を提供しました。そしていよいよ今年7月、「JET STREAM」は放送開始から50周年を迎えます。

同じく9月に、当社の行動理念「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を体現するイベントとして、4時間のボランティア活動に参加するとコンサートに入場できるというアメリカ発の社会貢献プロジェクト「RockCorps」の9月の福島での日本公演を主催しました。本プロジェクトはこれまで世界各地で開催されており、当社は日本で初開催した2014年から後援していましたが、今回はキャスティングも含めた企画プロモーション活動を担いました。同イベントの公式アンバサダーに就任したレギュラー番組パーソナリティの高橋みなみが、風評被害で打撃を受けた福島で農地ボランティアを行なったほか、東北復興のための数々のボランティア活動を行なった4,385人が、ボランティア総時間17,540時間を創出し、大黒摩季、カナダの人気アーティスト カーリー・レイ・ジェプセンら内外の豪華メンバーが出演したライブイベントに参加しました。

毎年恒例となっている主催イベントとして、松任谷由実、福山雅治、山下達郎ら当社レギュラー出演者のコンサートを実施しました。そのほか、「クイーン+アダム・ランバート公演」、女性を中心に人気の2.5次元ミュージカル「NARUTO-ナルト-(再演)」、「ダリ展」、デヴィッド・ボウイ大回顧展「DAVID BOWIE is」等多岐にわたるイベントを主催、後援しました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主要通信3キャリアが運営する定額アプリ使い放題サービス(KDDI「au スマートパス」、NTTドコモ「スゴ得コンテンツ」、ソフトバンク「App Pass」)へのコンテンツ提供事業が増収となり、売上を牽引しました。また、LINEユーザー等に向けた「スタンプ」販売事業において、台湾・韓国ほか海外のプラットフォームへの販路拡大に取り組み、収益基盤の強化に努めました。

さらに、i-dioのセンター設備を受注したほか、企業向けアプリやWEBサービスの開発受託を行うソリューション事業がNTTグループからの大型受注等により売上を伸ばしました。

<賃貸事業活動>

JFNセンタービル等による賃貸事業を運営しております。

<その他の事業活動>

TOKYO FM少年合唱団は、文化的、教育的意義のあるメセナ事業として取り組んでおり、音楽的にも国内外から高い評価を受けております。今期も新国立劇場で上演された歌劇「ラ・ボエーム」「カルメン」への出演等幅広く活動しました。その他、直営2店舗によるレストラン事業を運営しております。

前期比較損益計算書（連結）

平成28年4月1日～平成29年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成29年3月期 (H28. 4. 1～H29. 3. 31)	平成28年3月期 (H27. 4. 1～H28. 3. 31)	前期比
売上高	19,793,661	19,262,246	102.8%
売上原価	12,812,822	12,090,000	106.0%
売上総利益	6,980,839	7,172,246	97.3%
販売費及び一般管理費	5,608,860	5,666,976	99.0%
（内のれん償却額）	44,314	90,752	48.8%
営業利益	1,371,979	1,505,269	91.1%
（売上高営業利益率）	6.9%	7.8%	
営業外収益	98,966	81,256	121.8%
営業外費用	416,863	185,809	224.4%
経常利益	1,054,081	1,400,717	75.3%
（売上高経常利益率）	5.3%	7.3%	
特別利益	153,369	599,938	25.6%
特別損失	55,279	110,426	50.1%
税金等調整前当期純利益	1,152,171	1,890,229	61.0%
法人税、住民税及び事業税	386,836	663,943	58.3%
法人税等調整額	109,227	44,855	243.5%
当期純利益	656,107	1,181,430	55.5%
非支配株主に帰属する 当期純利益	33,096	27,799	119.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	623,011	1,153,630	54.0%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位:千円)

勘定科目	平成29年3月期 (H28.4.1～H29.3.31)	平成28年3月期 (H27.4.1～H28.3.31)	前期比
売上高	13,559,060	14,271,930	95.0%
売上原価	8,743,672	9,288,067	94.1%
売上総利益	4,815,387	4,983,862	96.6%
販売費及び一般管理費	3,993,139	4,003,080	99.8%
営業利益	822,248	980,782	83.8%
(売上高営業利益率)	6.1%	6.9%	
営業外収益	372,096	311,931	119.3%
営業外費用	48,485	49,244	98.5%
経常利益	1,145,859	1,243,469	92.2%
(売上高経常利益率)	8.5%	8.7%	
特別利益	27,170	743,259	3.7%
特別損失	42,489	63,589	66.8%
税引前当期純利益	1,130,540	1,923,139	58.8%
法人税、住民税及び事業税	267,833	563,988	47.5%
法人税等調整額	35,282	34,502	102.3%
当期純利益	827,424	1,324,648	62.5%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位:千円)

	平成29年3月期 (H28.4.1～H29.3.31)	平成28年3月期 (H27.4.1～H28.3.31)	前期比
売上高	13,559,060	14,271,930	95.0%
放送事業収入	12,118,994	12,664,101	95.7%
放送収入	8,259,005	8,363,663	98.7%
タイム放送料	5,719,897	5,907,793	96.8%
スポット放送料	2,539,107	2,455,869	103.4%
制作収入	2,180,969	2,157,506	101.1%
その他	1,679,018	2,142,931	78.4%
企画事業収入	1,109,922	1,282,545	86.5%
賃貸事業収入	233,867	232,607	100.5%
その他事業収入	96,276	92,675	103.9%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

52期(通期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

52期	51期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	6	エスプロックス
5	4	大日本印刷
6	5	オリコビジネス&コミュニケーションズ
7	7	ビデオプロモーション
8	10	ユータムエンタープライズ
9	8	東急エージェンシー
10	11	読売エージェンシー

<タイム>

52期	51期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	5	オリコビジネス&コミュニケーションズ
6	6	ビデオプロモーション
7	8	東急エージェンシー
8	10	読売エージェンシー
9	7	オフィスフラッグス
10	11	朝日広告社

<スポット>

52期	51期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	4	エスプロックス
4	3	アサツーディ・ケイ
5	5	ユータムエンタープライズ
6	6	放送文化事業
7	7	東急エージェンシー
8	9	大日本印刷
9	8	リビコー
10	14	日本経済社

平成29年3月期 決算短信

平成29年5月25日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経営管理室長 (氏名) 東 和志 TEL (03) 3221-0080

配当支払開始予定日 平成29年6月20日

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期の連結業績 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期	19,793	2.8	1,371	△8.9	1,054	△24.7	623	△46.0
28年3月期	19,262	3.5	1,505	△4.2	1,400	△18.6	1,153	10.0

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益		自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円	銭	円	銭	%	%	%
29年3月期	695	37	—	—	2.1	2.7	6.9
28年3月期	1,287	62	—	—	4.1	3.7	7.8

(参考) 持分法投資損益 29年3月期 △365百万円 28年3月期 △134百万円

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭	
29年3月期	39,462		29,907		74.8	32,956 19	
28年3月期	37,997		29,468		76.0	32,242 23	

(参考) 自己資本 29年3月期 29,526百万円 28年3月期 28,887百万円

2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率(連結)			
	中間期末	期末	合計						
	円	銭	円	銭	百万円	%			
28年3月期	60	00	60	00	120	00	108	9.3	0.4
29年3月期	60	00	60	00	120	00	108	17.3	0.4

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規一社

除外1社

TOKYO SMARTCAST株式会社

(注) TOKYO SMARTCAST株式会社は、当連結会計年度中に実施された第三者割当増資により持分比率が低下したこと
に伴い、当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 有
- ② ①以外の会計方針の変更 有
- ③ 会計上の見積りの変更 有
- ④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期	900,000株	28年3月期	900,000株
② 期末自己株式数	29年3月期	4,057株	28年3月期	4,057株
③ 期中平均株式数	29年3月期	895,943株	28年3月期	895,943株

（参考）個別業績の概要

1. 29年3月期の個別業績（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期	13,559	△5.0	822	△16.2	1,145	△7.8	827	△37.5
28年3月期	14,271	△1.5	980	△18.7	1,243	△7.2	1,324	73.4

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
29年3月期	919	36	—	—
28年3月期	1,471	83	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
29年3月期	38,608		30,296		78.5		33,663	11
28年3月期	36,785		29,450		80.1		32,722	34

（参考）自己資本 28年3月期 30,296百万円 28年3月期 29,450百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、会社法に基づく連結計算書類及び計算書類等の監査手続は終了し、適正である旨の監査報告書を受領しております。